

まちづくりの最前線へ

——内子町の山間地での実験・村並み保存運動から学ぶもの——

1 「まちづくりとは」を考えて——

- 地域住民が自立し、主体になってまちづくりが進められるとき、困るのは行政の人たちか。

2 変わりつつある内子——「町並みから村並みへ」

※ 経済成長期の価値観に対処して

環境への価値感の変化——生活環境～自然環境～歴史的環境——アメニティ&エコロジー

町並み保存（歴史的環境保全運動）から学ぶ

※ 公共の中のモラルとして——私権の行使と合意形成

※ 欧米での公共性と我が町(日本)の違い

3 町民（住民）の誇りと自信へ——町格——観光化と地域自慢

4 享受の時代から協働の時代へ——「与える人（公務員）」「受け取る人（住民）」の時代は終わった。

5 むらの風景は、人を惹き付ける最大の遺産——観光資源——担い手は地域住民

- 「むら」（村、邑、屯、邨、ムラ、むら）があって、町（街、まち）がある。

- 「地域の美」を求めて——花から団子へ

- エコロジーを求めて——水と緑と環境保全

- 地域住民の活性化を求めて——受益者から地域づくりの当事者へ（協働化）

※ 石畳の事例から——美しいむらづくり、水車づくり、石畳の宿

「肩書きを持たない」住民のサークルづくり——自立

農家民宿「石畳の宿」——交流、スローフード、ホンモノ

6 足し算型まちづくりの誤算——給付への思い上がり

- 造っても創っても地域がよくなるらない。

- メンテナンスに追われて、何もできない。——前任者のツケに追われて

- 「まちづくりごっこ」での自己満足

7 コミュニティへの問い直し

- 機能しない住民組織に甘んじて——過剰サービスのツケ
- 自立（自律）の喜びを学ぶ

8 引き算型まちづくりへ

- 「負の要因」を認識する力量を持ちうるか。——行動する力——自治研活動
- 「係」と人事異動
- 常識の転換から
- 多数決民主主義の落とし穴
- 職員研修という名の旅 > 住民の生涯学習

9 「創る努力よりも『壊す勇気』を」身につけよう。——敵をつくっても

- 行政の仕組みやシステムは、公務員の保身のためか。
- オフレコでしか語れないのが「負の要因」である。
- 地域にあって、行政組織は「まちづくり会社」としての自覚が必要。

10 まちづくりへの壁——それは行政